

イツモ防災の
これまで
と
これから

● 概要説明

本資料は2015年度より埼玉県危機管理部危機管理課及び、NPO法人プラス・アーツとで、企画運営している「埼玉県イツモ防災事業」の現時点における成果について報告するものである。

埼玉県イツモ防災事業の目的は、埼玉県民の永続的な防災力の向上である。

本事業におけるアウトカム指標は、

①イツモ防災が事業継続して埼玉県民の防災力がどの程度向上したのか

②イツモ防災事業に参加した県民がどのように成長をしたのか

大きくはこの2点を指標として、事業の効果を報告するものとする。

①の指標報告の具体として、研修受講者数・講座実施回数を定量的報告として紹介する。

②の具体としては、研修受講者へのアンケート調査及び、インタビューの情報を紹介する。

まとめとして、現状の成果に対し次年度以降、取り組むべき課題及び改善方法等を記し、本報告書の結びとする。

● 事業目的達成の戦略



**「防災」に対する第一印象を変え、
参加意識のハードルを下げる**

ブランディング

ツール開発

●ブランディング

日本を代表するトップクリエイターにより イツモ防災のオリジナルロゴとステートメントを制作



デザイナー
寄藤文平氏



あなたのイツモが、
モシモを変える。

強度のあるデザインにより
見た目の求心・訴求力を向上させる

埼玉県には、大きな都市がある。
豊かな自然がある。
地元で働く人もいれば、県外で働く人もいる。
ひとり暮らしの人、家族と暮らす人。
じつにさまざまな人が、日々の暮らしを
育んでいます。多様な暮らしが描う埼玉県。
だからこそ私たち全員が防災に取り組み
成果を出せば、それは日本中の防災の
お手本にもなる、と思うのです。
災害時の備えを、ふだんから家族や身近な人と
話し合う。準備する。それを継続する。
そういうことが当たり前になれば埼玉は、
いままで以上に人にやさしく、
いのちにやさしい街になる。
何があっても、住みやすい埼玉であるために。
ぜひあなたから「イツモ防災」、始めてください。
SAITAMA ITSUMO BO-SAI



コピーライター
岡本欣也氏

イツモ防災の「ありたい姿」を声明することで
ステークホルダーも支える指針となる

● ブランディング

キャッチコピーの制作

防サイタマで
いこうじゃないか

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

あなたのイツモが、
モシモを変える。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

人間の
やさしさを、
防災の力に。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

埼玉の
住みやすさに、
防災も加えよう。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

イツモ、
いのちを想う県へ。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

防災は、
ふだんの
絆にもなる。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

ひとりひとりの
防災が、
防災の主役です。

SAITAMA ITSUMO BO-SAI

● ツール開発



**オリジナルロゴを使ったイベント用演出物
(テーブルクロス・のぼり) の制作**

● ツール開発

キャッチコピーを使ったイベント用ユニフォームの演出



● ツール開発

キャッチコピーを使った啓発ポスター（A1サイズ）の制作



あなたのイツモが、
モシモを変える。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



イツモ、
いのちを想う県へ。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



ひとりひとりの防災が、
防災の主役です。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



防災は、ふだんの
絆にもなる。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



防サイタマで
いこうじゃないか

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



埼玉の住みやすさに、
防災も加えよう。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索



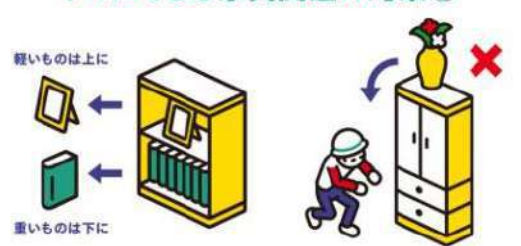
人間のやさしさを、
防災の力に。

彩の国  埼玉県

詳しくは [埼玉県 イツモ防災](#) 検索

講座実施補助ツールの制作

すぐにできる家具関連の対策①



軽いものは上に
重いものは下に

軽いものは上に、
重いものは下に置いて、
家具の**重心を下げます。**

ガラス製品など、
危険なものは**家具の上に**
置かないようにします。



※保存期間7年

断水になれば自宅のトイレも使えません。
4人家族の場合、最低7日分**70~140枚**必要！

家具転倒防止 FILE: 001

家の中の防災対策



- 1 扉を開けたり引き出しを出さないで、家具と壁との隙間を埋める。
- 2 エントピー（転倒防止）器具を、家具と床との間に設置する。
- 3 家具と床との隙間を、ダンボールなどで埋める。
- 4 二重扉の家具は、扉の閉鎖状態にする。
- 5 引き出しや扉を開けるとき、扉の止り止め器具を取り付ける。
- 6 手帳のときは、裏下層の固定テープや結束を取り付ける。
- 7 机の脚には、固定防止対策用の固定テープや結束を取り付ける。
- 8 PCデスクには、固定テープやストラップを脚に取り付ける。
- 9 倒壊防止は、避難訓練時に実施するが、緊急時には対応する。
- 10 コーラスは、倒壊防止対策用の固定テープや結束を取り付ける。

サバイバルキッチン FILE: 001

食料備蓄の知恵

日間備蓄を実現するための知恵

（消費食・冷凍食品の食料を指す）



ローリングストック法

毎日1日分程度の消費食（お米・お味噌汁）を消費し、同時に1日分の消費食（お米・お味噌汁）を備蓄する。消費食と備蓄食の入れ替えを繰り返すことで、常に1日分の消費食を備蓄し続けることができる。

その他の備蓄方法

- 缶詰
- 脱水野菜
- 冷凍食品
- 乾燥食品
- インスタント食品

食べながら備える「ローリングストック法」

消費	備蓄	消費	備蓄
100g	100g	100g	100g
200g	200g	200g	200g
300g	300g	300g	300g

講座用スライド

配布資料

防災啓発リーフレットの制作

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック

命を守る3つの自助編（蛇腹型）

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック
BO-SAI MANUAL BOOK
命を守る3つの自助編
防災マニュアルブックの活用方法

「安全なおうち」チェックポイント
① 地震が起きたら
② 「安全なおうち」のポイント

家具の転倒防止①
③ 家具を転倒防止グッズの活用
④ 家具の転倒防止グッズの活用

家具の転倒防止②
⑤ 家具の転倒防止グッズの活用

家具の転倒防止③
⑥ 家具の転倒防止グッズの活用

その他の家の中の危険対策
⑦ 家具の転倒防止グッズの活用

3日以上のお水・食料の確保①
⑧ 3日以上のお水・食料の確保①

3日以上のお水・食料の確保②
⑨ 3日以上のお水・食料の確保②

防災は、みんなの絆にもなる。

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方

災害用伝言サービス

災害用伝言サービス

災害用伝言サービス

災害用伝言サービス

災害用伝言サービス

災害用伝言サービス

防災啓発リーフレットの制作

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック

命を守る3つの自助編 多言語版 (蛇腹型)

How to prevent furniture from falling over (2)

● 3 points to prevent furniture from falling over using easily obtainable materials such as a cardboard box

- ① Make a less-than-2cm gap between the ceiling and the box. You do not need to fit the gap because the box will be caught on the ceiling.
- ② Attach adhesive mats to the bottom of the box and stick the box to the drawers. Removable ones are recommended!
- ③ Place a slip-proof mat under the drawers. It prevents furniture from sliding during an earthquake.

● Anchoring furniture by combining several devices

Under the furniture

On the furniture

If these devices are combined, they will have the same strength as an L-shape bracket!

Stopper or Mat = Tension rod + Stopper or Mat

▲英語版

防止家具翻倒の方法②

● 用紙板箱等身边的材料防止翻倒的3个要点

- ① 天花板与箱子的空隙最多2cm。由于箱子合不天花板上,因此,可以用填堵空隙。
- ② 在箱子底部粘上粘合垫,令箱子与衣柜成为一体。建议使用易粘脱粘合垫!
- ③ 铺上防滑板防止家具因地震时的摇晃而向前滑动。

● 基于组合技术的家具固定

家具下方

家具上方

如果组合起来,将达到与L型五金件相同的强度!

固定垫式 or 垫子式 = 撑杆式 (张杆) + 固定垫式 or 垫子式

▲中国語版

가구 전도 방지 방법②

● 골판지 박스 등 주변에 있는 소재를 이용한 전도 방지 3가지 포인트

- ① 천장과 박스 사이는 2cm 이내로. 박스가 천장에 걸리기 때문에 사이를 채우지 않아도 OK.
- ② 박스의 바닥에 점착 매트를 붙여서 박스와 장롱을 일체화한다. 점착 매트는 분리가 쉬운 것을 권장!
- ③ 미끄럼 방지 시트를 깔다. 지진의 진동으로 가구가 앞쪽으로 미끄러져 나오지 않도록 한다.

● 조합 방법으로 가구를 고정

가구 밑에는

가구 위에는

포함해서 사용하면 내진 성능이 더욱 강해진다!

Stopper or Mat = Tension rod + Stopper or Mat

▲韓国語版

Cách phòng chống đổ đổ nội thất (1)

● Hiệu quả của các đồ vật phòng chống đổ đổ nội thất

Sử dụng riêng lẻ: Đồ giả hình chữ L (Mặt đặt hướng xuống dưới) - Hiệu quả số 1

Lắp ghép với nhau rồi sử dụng

Kiểu quả bóng

Kiểu dây đai

Kiểu con chân

Kiểu con chèn

Kiểu tấm

Kiểu con chốt

Kiểu tấm

Đưa theo sách hướng dẫn phòng chống đổ đổ nội thất để, nó, đi chuyên (Cac PCCC Tokys)

Khi muốn yêu cầu nhân viên chuyên môn thực hiện có định độ nở mất, vui lòng sử dụng "Dịch vụ hỗ trợ có định độ nở mất tình Satama" (Tư vấn miễn phí, thu công có phí) <http://www.pccctokyo.jp/m401/bousaitansaku/index.html>

▲ベトナム語版

防災啓発リーフレットの制作

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック
 家庭における災害時のトイレ対策編 (冊子型)

**目立つところに置いておきたい
防災マニュアルブック**
 BO-SAI MANUAL BOOK
 家庭における災害時のトイレ対策編

あなたのイツモが、
モシモを要える。

彰の舎 埼玉県

大きな地震が発生すると...

いつも使っている水洗トイレが
使えなくなる可能性があります。

電気がつかない

水が来ない

水が流せない

この本を参考に、トイレ対策を始めましょう。

※このパンフレットは、災害発生時にも必ず読んでください。

知っておこう！トイレの大切さ

●災害時に陥りやすい状況

トイレを
がらんどう

トイレを
使ったこと
を知らせる

災害発生時、地震、
停電、停電の復旧まで

トイレをがまんしないことが大切です。
 安心して行けるトイレ環境づくりを心がけましょう！

●理想的なトイレ環境

トイレに行きたい時にに行ける。
 ▶安心して用を足す。
 ▶水分をしっかり摂取する。
 ▶適度に運動する。

おうちにあるかチェックしてみよう

トイレ回数は1人1日約5回で想定し、家族7日分以上備蓄しましょう。

1人1日
約5回

家族の
人数分

7日分
以上

4人家族の場合
必要
= 約140枚

参考・節約型の備蓄量例 ※後述設計の備蓄例が好ましいです。 お家にある
 大便→1人1日1回、1回ごとに携帯トイレを交換 携帯トイレの数
 小便→1人1日4回、3回使用ごとにトイレを交換

家族4人で一
 人用時 1枚×4人
 ×7日=28枚

小便用 4枚×4人×7日
 ×3=37枚

合計
 = 65枚
 必要!

携帯トイレ

ポリ袋 (ゴミ袋)
 枝物トイレの設置時に

使用済携帯トイレの
密閉袋・ボックス
 使用済トイレの保管に。

トイレットペーパー
 量産から多めに備蓄を。

ウェットティッシュ
 手洗いの洗浄に。

アルコール消毒液
 トイレ後の手の衛生に。

石けん・ハンドソープ
 手の水洗いに使って。

バケツ
 水の運搬に。

ランタン型トイレ
 使用済トイレの保管に。

新聞紙
 手持りトイレの材料に。

清拭剤
 トイレのにおい対策に。

●トイレ掃除道具 ●除菌洗剤 ●マスク ●ゴム手袋 (使い捨て) ●ぞうきん etc

家族の状況に応じて備えておくもの

生理用品
 少し多めに買い置きを。

オストメイトの対策

オストメイトの対策
 ▶緊急時対策員...一旦自分から要せず所持する。
 ▶手持ち用器具...避難所へ持ち出してそこで使
 用しておく。
 ▶緊急時届先の携帯メモ...日常生活している
 緊急時の商品名や器具購入先、おかりつけ病院の
 連絡先など。
 (オストメイトの緊急対応は日本オストメイト協会 JPO)
 http://jpo-net.org/wws/Top

携帯トイレ
 災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。また、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。

マシソン型トイレ
 マシソン型トイレは、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。また、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。

いつでも水洗トイレが使えない時は、
 いろいろな災害用トイレを活用して、乗り切りましょう！

過去の震災からトイレを学ぶ

●阪神・淡路大震災 (1995.1.17)

「次のお住まいの場所」にはあるあるの山で、
 人混みでトイレが使用できなくなるまで見守る
 人が続出した。

「避難所に設置されたトイレが壊れたのは早くて、
 1週間以上経たずには壊れた。」

「1階から2階まで避難所に移動し、
 「避難トイレの設置が滞りになり、(中略)避難
 禁止の避難トイレがなかった。」

●新潟県中越地震 (2004.10.23)

地震も多く、避難に入らず、家の中で避難生活を
 送った人たちが、その先でできる準備...に思
 付かないように、必要物資の準備を怠ら、その
 結果、トイレが壊れたまま避難先で過ごすこと。
 避難先に入らず、早急には避難先へ避難し、避難
 先で避難先で避難先で避難先で避難先で避難先
 の避難先で避難先で避難先で避難先で避難先
 の避難先で避難先で避難先で避難先で避難先

●東日本大震災 (2011.3.11)

下水処理施設が地震前に被害を受け、トイレ
 用に高圧洗浄機が壊れた。下流中流の汚
 染が激化した被災地もあり、衛生確保がまま
 ない状況。避難所は汚染処理や浄化施設の
 被害に巻き込まれた。

汚水が流れていない水洗トイレが壊れました。避難
 先で避難先では使えていないので、自
 家で避難先で避難先で避難先で避難先

●避難所下流での増五箇所の被害はどうなる?

震災
 約9万2千世帯が停電
 復旧予定 40日

津波
 約22万9千世帯が停電
 復旧予定 30日

下流
 約109万人が被災
 復旧予定 30日

おうち、避難所、オアシスなど、どこにいてもトイレは大切です

災害時のトイレは、備えが重要です。
 備え→避難先へ、おうちでも避難先でも使えます。

災害用トイレにはどのようなタイプがある?

携帯トイレ
 災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。また、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。

マシソン型トイレ
 マシソン型トイレは、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。また、災害発生時にトイレが使用できなくなる場合に備えて、事前に準備しておく。

防災啓発リーフレットの制作

小学生向け災教材



2019年6月 ※内閣府特命担当大臣賞を受賞

※ (公財) 消費者教育支援センターが実施する消費者教育教材資料表彰2019において最も優れた教材として選出

防災啓発リーフレットの制作

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック
風水害・土砂災害編（蛇腹型）

目立つところに置いておきたい
防災マニュアルブック
BO-SAI MANUAL BOOK

風水害・土砂災害編

防災について

みんなで考えよう!

避難のタイミングを
あらかじめ決めておこう

彩の国 埼玉県

マイ・タイムラインを作ってみよう!

●マイ・タイムラインとは
大雨や台風が接近し水害の危険性が高まっているときに、自分自身が行動を時間の流れに沿って整理したものです。急な判断が求められるお急ぎに、自分の行動チェックリストとして、また判断のサポートツールとして役立ちます。

【マイ・タイムライン作成の流れ】
① このマニュアルで正しい避難について学ぶ
② いつ、なにをするべきか家族で話し合う
③ マイ・タイムライン記入欄に情報を記入し完成させる
④ 家族が見える場所に置いておく

いざというときに慌てないために、マイ・タイムラインを作っておきましょう!

●水害から身を守るための3つのポイント
水害は増水が速い、予測できる災害です。早めに行動すれば、被害を減らすことができます。

1. 事前の確認 2. 情報入手 3. 早めに避難する

事前の確認① 住んでいる場所の特徴

お住まいのお住居のハードマップを確認し、自分が住んでいる場所がどういった場所なのか、確認しましょう。

1 洪水ハザードマップで確認

- 浸水する深さ () m
- 想定されている氾濫河川との距離 (川) ... () m
- 最寄りの指定緊急避難場所等への距離 ... () m

知っておこう
500m多くのかかる時間(目安)
大人 約6~8分 ・高齢者 約10分

2 土砂災害ハザードマップで確認

- 住んでいる場所が土砂災害警戒区域等に (入っている ・ 入っていない)
- 避難経路が土砂災害警戒区域等に (入っている ・ 入っていない)

マイ・タイムラインをつかってみよう(例)

この記入例をもとに、おのマイ・タイムラインへ書き込んでみましょう!

3日前 (台風発生)	2日前	1日前	当日	0時以降
台急予報 警戒レベル 1発	大雨注意報 洪水注意報 警戒レベル 2発	大雨警報 洪水警報 警戒レベル 3発	3 避難準備・ 高齢者等 避難開始	4 避難勧告または 避難指示(緊急)
●外出の準備 ●降傘の確認 ●降ばさず傘を 車庫に入れる	●ハザードマップで 避難場所を確認 ●降傘や傘袋に 着替えておく ●雨に濡れる （濡らす可能性がある 衣類）	▶避難開始 ●高水位の水位を がけながら、 家の前へ避難開始	【目安】 ・手前が高齢者等避難に時間がかかる 定まっている場合は警戒レベル3から 避難開始 ・避難経路まで距離がある、時間がか かる場合もレベル3から避難開始	●家族みんなで身の安全 を確認する ●水の量も危険は高まる、 水位が急上昇し続ければ 命を守る最善の行動
●事前に行動を確認 ●避難のタイミングを 記入しよう	●情報の入手先を定めておこう	●警戒レベル3が発令されない場合もあるため、自分の家が 危険だと感じた時に速やかに避難行動を取りましょう。		

事前の確認②

住んでいる場所と状況で避難行動が変わります。状況に

1 指定緊急避難場所等への「立退き避難」

例えば

- 浸水する深さが50cm以上となる地域
- 長時間の深い浸水が予想される時
- 土砂災害警戒区域等に入っているとき

※避難の原則は「立退き避難」です。
事前の準備と早めの判断と行動が必要です。

2 近隣の安全な場所への「立退き避難」

- 浸水が始まって移動が危険なとき

【安全な場所の例】
・3階建て以上の鉄筋コンクリート
（浸水する深さ5mの場合）
・小高い場所

●想定する避難場所① ()

情報入手① 防災気象情報の入手

自分から情報入手することが迅速な行動につながります。

●情報入手先
・テレビ・ラジオ
・気象庁ホームページ
・川の防災情報ホームページ(国土交通省)
・埼玉県 川の防災情報ホームページ

テレビによる伝達のイメージ

テレビの「Dボタン」を活用!

●Dボタンを押す
①Dボタンを押すと、テレビの画面に天気予報、気象情報、防災情報、避難情報、土砂災害警戒区域等に関する情報が表示されます。
②Dボタンを押すと、テレビの画面に天気予報、気象情報、防災情報、避難情報、土砂災害警戒区域等に関する情報が表示されます。

避難する際のポイント

- 川には近づかない
- 夜間の避難は危険
- 近所で声をかけ合って
- 避難に余裕が入って歩かない
- 両手を高く持つ
- 運動靴を履く
- 持ち物は最小限に
- マンホールや側溝に注意
- 長い棒を杖にしながら歩く
- 切れた電線は危険

マイ・タイムラインをつかってみよう

家のマイ・タイムライン

3日前 (台風発生)	2日前	1日前	当日	0時以降
台急予報 警戒レベル 1発	大雨注意報 洪水注意報 警戒レベル 2発	大雨警報 洪水警報 警戒レベル 3発	3 避難準備・ 高齢者等 避難開始	4 避難勧告または 避難指示(緊急)
●事前に行動を確認 ●避難のタイミングを 記入しよう	●情報の入手先を定めておこう	●警戒レベル3が発令されない場合もあるため、自分の家が 危険だと感じた時に速やかに避難行動を取りましょう。		

防災啓発リーフレットの制作

目立つところに置いておきたい 防災マニュアルブック
自宅サバイバル編 (蛇腹型)

目立つところに置いておきたい
防災マニュアルブック
BO-SAI MANUAL BOOK

自宅サバイバル編

あなたのイツモが、
モシモを変える。
彩の国 埼玉県

地震発生後の生活をイメージしよう!

例えば真冬の午前中、埼玉県で震度6弱の地震が発生！その時、皆さんの自宅でどんなことが起こるのか、すぐにイメージできますか？
起こった季節、時間、いる場所など、その時の状況によって起こることは様々です。下の一例を参考に地震発生後の生活を事前にイメージし、家族みんなで話し合きましょう。

真冬の
朝9時

震度6弱の
地震が発生

[ライフライン
復旧予想]

電気:6日目 電話:14日目 上下水道:30日目 ガス:55日目

大地震後
1日目に
起こること

有効な
防災グッズ

朝

家族が無事か
確認したい
連絡が
つかない…

のどが渴いた
水が出ない…

お腹が空いた
冷蔵庫が使えない…
ガスが止まり調理できない…

トイレに行きたい
流せない…

夜

寒い
暖房がつかない…

暗い
灯りがつかない…

お風呂に
入りたい
水・ガスが
使えない…

歯みがき
したい
水が出ない…

電気・水道・ガス等が復旧するまで続く

→ 表裏紙 → P1 → P2, P3, P4, P5, P6 → P3, P5, P7 → P3, P4, P5 → P8 → P9 → P10

※台風などの雨や風は事前に予測できるので、風水害が発生する前に準備することができます。避難に備えた行動をあらかじめ決めたものがマイタイムラインです。一人ひとりで、家族でそれぞれのマイタイムラインを作成し風水害から身を守りましょう。 <http://www.pref.saitama.lg.jp/e0402/903-20091203-31.html>

<p>1 飲料水</p> <p>生きていく</p> <p>3日分 × 3人 × 3人 = 27日分</p>	<p>2 非常食</p> <p>非常時だからこそあわてなさを</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>3 ポリ袋</p> <p>サイズに合わせて使い分ける</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>4 ラップ</p> <p>オールマイティに使える便利なもの</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>5 新聞紙</p> <p>ただの紙だと侮るなかれ</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>6 カセットコンロ・ボンベ</p> <p>温かい食事は災害時の心の支え</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>7 携帯トイレ</p> <p>食べた後は、出さなきゃいけない</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>8 LEDランタン・ヘッドライト</p> <p>懐中電灯は不敵!?</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>9 からだふきウェットタオル</p> <p>体の清潔は心の清潔</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>	<p>10 口拭きアウェットティッシュ</p> <p>お口が不潔だと自然と…</p> <p>1人1日 × 3人 × 3日 = 9日分</p>
---	--	---	--	---	--	---	--	--	--

防災啓発リーフレットの制作

事前に頭に入れておきたい防災マニュアルブック
地震時の行動編

事前に頭に入れておきたい
防災マニュアルブック
BO-SAI MANUAL BOOK

地震時の行動編

SAITAMA
ITSUMO
BO-SAI

地震時にどう行動するか
みんなで考えよう

彩の国 埼玉県

地震時の基本行動

1 安全な場所に逃げ込む
(3つの危険から離れる)

地震時の危険は主に以下の3つ。これらの危険から離れよう!

倒れてくる物 落ちてくる物 動いてくる物

2 机を守り安全姿勢を取る
近くに安全な場所がないときは、机を守ろう!

押っかかりで机を守る 脚を強く手で机を守る

上記の内容をもとに絵巻でも作成しましょう。
※ページ以降で解説します。

問題 シーン 4 学校にいるとき

学校にいるときに地震発生!
あなたならどうする?

授業中

放課後

学校の中で
安全な場所はどこだろう?

解説 シーン 4 学校にいるとき

共通する行動 1. 安全な場所に逃げ込む(3つの危険から離れる) P-2
2. 机を守り安全姿勢を取る

授業中は
先生の指示に従い
安全な行動を取る

机の下にもぐり、机の脚をしっかりと
おさえましょう。
机がない場合は、窓や落ちて
きそうな物から離れ、低い姿勢
になり頭を守りましょう。

みんな
机の下に!

放課後は
安全な場所に
身を寄せる

校庭の中央など安全な場所へ
すぐに移動しましょう。

事前にできること

● 教室や校庭の危険をチェックしておく

教室や校庭に「倒れてくる・落ちてくる・動いてくる」ものはありませんか?それら避けるにはどこに逃げ込めば良いでしょうか?先生と一緒に考えておきましょう。

▶ CHECK 1 危険な物
ロッカー、本棚、靴箱、テレビ、時計、窓ガラス、蛍光灯、ピアノ、樹木、道具 など

▶ CHECK 2 逃げ込める場所
机の下、教室や廊下の中央、校庭の中央 など

問題 シーン 6 運転しているとき

運転中に地震発生!
あなたならどうする?

運転中に取るべき
安全な行動は何だろう?

解説 シーン 6 運転しているとき

前後の車を確認し
道路の左側に
停車する

前後の車も進行しているため、急ブレーキは禁物。ハザードランプを点灯し、路肩に逃げ出し停車しましょう。

事前にできること

● 地震時の行動を確認しておく

1. 地震発生、音がするときはまず車を止める。
2. 止まったら安全な場所で車を止める。道路の左側に車を止める。
3. 車を止めた後は、周囲の状況を確認し、安全な場所に逃げ込む。
4. 安全な場所を確認し、車を止めた後は、道路の状況を確認し、安全な場所に逃げ込む。

危険な物 危険な物 危険な物

**防災を分かりやすく伝えられる人を増やし
啓発の範囲・頻度を高める**

人材育成研修

イベントでの実践

● 人材育成研修

対象 行政職員（埼玉県職員・市町村職員・消防職員）消防団員・自主防災組織・大学生

育成手法 3段構えの研修（2015年～2017年）

①基礎研修

- ・座学
- ・宿題

②フォローアップ研修

- ・復習
- ・座学
- ・実技予習

③イベント実践研修

- ・実践

認定制度

イツモ防災インストラクター認定制度（2018～）

活躍の場づくり

**イツモ防災キャラバン
（2018～）**

インストラクター研修

市町村職員向け研修

●人材育成研修

研修

基礎研修

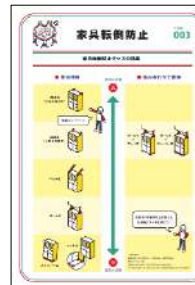
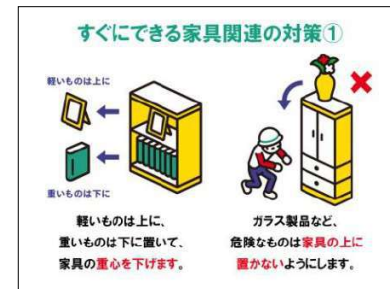


[目的]

- ・防災を分かりやすく伝えられる講師を養成すること

[研修内容]

- ・防災講座の実施ノウハウ提供



[提供資料]

- ・パワーポイントスライドデータ
- ・研修用配布資料

[課題設定]

- ・地域で防災講座を実践すること
- ・課題を共有すること

●人材育成研修

研修

フォローアップ研修



[目的]

- ・基礎研修受講生へのアフターフォロー
- ・防災イベントに対する主体性の醸成

[研修内容]

- ・地域講座の課題共有と解答
- ・プログラムづくりワークショップ
- ・イベント型プログラムレクチャー

イベント実践研修



[目的]

- ・不特定対数の参加者に対して、防災を楽しく分かり易く伝える訓練

[研修内容]

- ・イオンやアリオ等商業施設にイベントブースを展開し、防災プログラムを実践する。

●人材育成研修

認定制度

イツモ防災インストラクター



ピンバッチ

認定基準：基礎研修＋インストラクター研修受講者

イツモ防災インストラクターになるとできること

- ▶イツモ防災キャラバンへ、インストラクターとしての稼働が可能に。
- ▶稼働をすると県から報奨金が進呈。

●人材育成研修

研修

インストラクター研修



[目的]

- ・キャラバンプログラム習得

[研修内容]

- ・防災プログラムのレクチャー

市町村職員向け研修



[目的]

- ・キャラバン参加～実施までの段取りを学習する

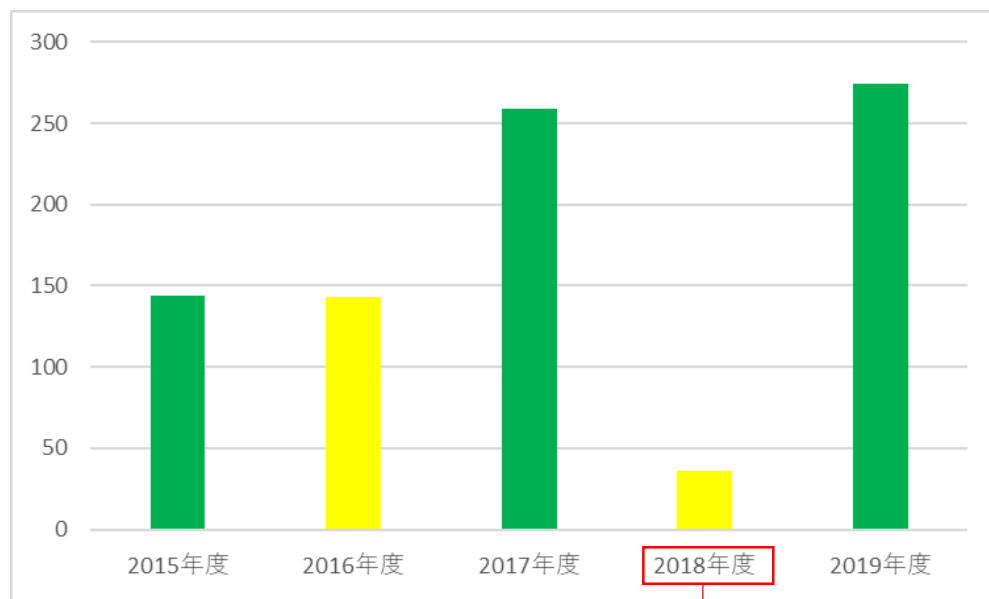
[研修内容]

- ・イツモ防災キャラバン概要説明
- ・キャラバン参加のフロー
- ・防災プログラムの紹介
- ・提供ツールの解説

●人材育成研修における数値的成果

受講者数の推移

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
144人	143人	259人	36人	274人	856人



受講者が累計500名を超え、拡充は一旦停止し
活躍の場を増やすためにイツモ防災キャラバンを開始
2018年度は講座の回数を1回に限定
※市町村から講座を増やしてほしいとクレーム
※次年度から講座回数を増やした

イツモ防災インストラクターへの登録割合

$$326_{人} / 856_{人中} = 38\%$$

イベント・講座への派遣人数

約**150人/年**

アクティブなインストラクターの割合

$$150_{人} / 326_{人中} = 46\%$$

全受講者の内、アクティブになる確率

$$150_{人} / 856_{人中} = 18\%$$

●人材育成における数値的成果

卒業生が実施した講座回数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	総合計
実践回数	252回	347回	418回	266回	1,283回
参加者数	23,000人	20,156人	41,171人	14,354人	98,681人

講座受講者数

98,681人

7,339,530人

全埼玉県民

全埼玉県民中1%は

1%

いつも防災講座を体験した

●人材育成における数値的成果

埼玉県内63市町村中、どれだけのエリアでイツモ防災講座が開催されたのか？

47

市町村

63

市町村中

=

埼玉県の約8割で実施されている

75%

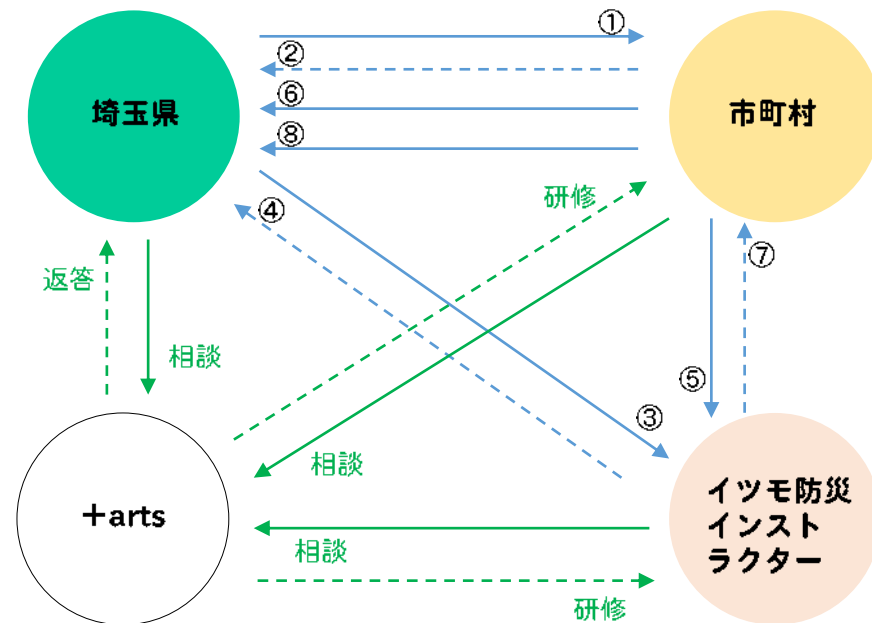
● イベントでの実践

イツモ防災キャラバン



市町村と地域に暮らす県民へ「イツモ防災」を啓発するための取組み。県が主体となるのではなく、各市町村の職員（市役所職員・消防職員等）が主体となり「イツモ防災」のツールを活用して講座やイベントを実施する。プログラム備品や必要な人員については県から支援が得られる仕組み。

【実施フロー】



- ①キャラバンエントリー募集
- ②申込
- ③キャラバン参加の募集
- ④申込
- ⑤イベント詳細について連絡
- ⑥プログラム備品のピックアップ
- ⑦参加
- ⑧実施報告+プログラム備品の返却

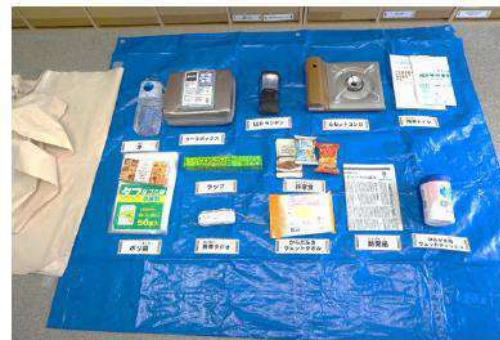
●イベントでの実践 展開プログラム



▲家具転倒防止キット備品



▲家具転倒防止キット実施風景



▲防災グッズ暗記クイズ備品



▲防災グッズ暗記クイズ実施風景



▲毛布で担架タイムトライアル備品



▲毛布で担架タイムトライアル実施風景



▲水消火器的「ねえ！ひもとくん」



▲水消火器的のあてゲーム実施風景



▲ジャッキアップゲーム備品



▲ジャッキアップゲーム実施風景



▲水害紙芝居「おおあめとぼくのゆめ」



▲対決！バケツリレー用ビーチボール

●イベントでの実践 展開プログラム



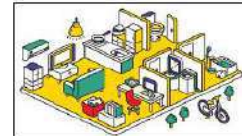
▲災害時の伝言〇×クイズ解説フリップ



▲災害時の伝言〇×クイズ実施風景



▲できなくなることクイズ解説フリップ



▲できなくなることクイズ用タペストリー



▲できなくなること実施風景



▲災害時の連絡方法High&Lowクイズ解説フリップ



▲災害時の連絡方法High&Lowクイズ実施風景



▲家具転倒防止まちがいさがし解説フリップ



▲家具転倒防止まちがいさがし用タペストリー



▲家具転倒防止まちがいさがし実施風景



▲災害時の食べものどうするクイズ解説フリップ



▲災害時の食べものどうするクイズ実施風景



▲知恵と工夫クイズ解説フリップ



▲知恵と工夫クイズ用アイテムカード



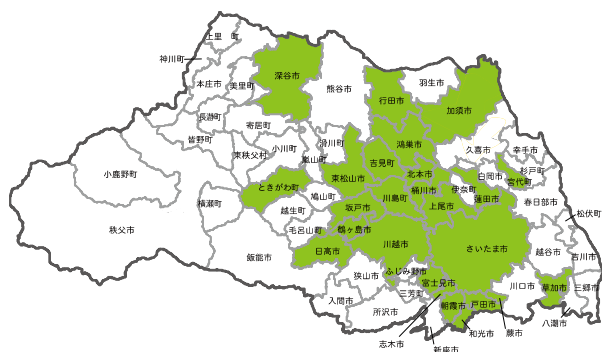
▲知恵と工夫クイズ実施風景

● 活躍の場の広がり

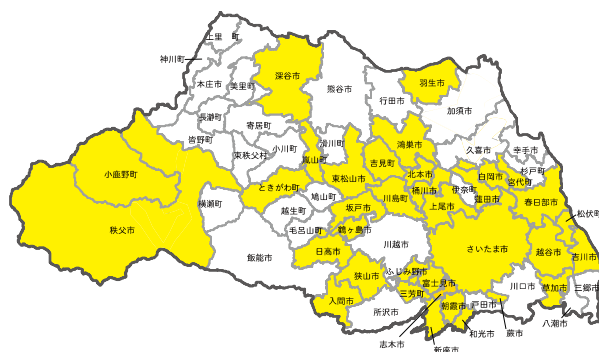
イツモ防災キャラバン開催回数 ※2020年度はコロナのため全面中止

	2018年度	2019年度	累計
実施回数	29回	44回	73回
参加市町村	19か所 (15市・4町)	34か所 (27市・7町)	35か所/63か所 (重複を省く)
インストラクター 総稼働人数	162名	209名	371名

2018年度



2019年度



累計



**無関心層にリーチできるよう、
企業・市町村と連携し多媒体でPR**

企業連携

市町村連携

東京ガス▶企業ロゴ入りのツールを作成

目立つところに置いておきたい
防災マニュアルブック
BO-SAI MANUAL BOOK

命を守る3つの自助編
家具の固定/災害用伝言サービス/3日以上の水・食料備蓄



あなたのイツモが、
モシモを変える。

彩の国  埼玉県  TOKYO GAS

ガスメーターの復帰方法

- 1 止める**


震度5程度以上の地震でガスが止まったら、復帰の準備としてすべてのガス機器を止めてください。
- 2 押す**


復帰ボタンのキャップを外し、ボタンを奥までしっかり押して、ゆっくり手を離してください。赤ランプが再び点滅します。
- 3 待つ**


復帰ボタンのキャップを元に戻し、約3分お待ちください。この間にガスメーターがガスもれがないか確認します。
- 4 使える**


3分後、赤ランプが消えていればガスが使えます。

● 詳細はガスメーター備え付けの絵札をご覧ください。

東京ガスの安全と防災に関する詳しい取組みについては、東京ガスのホームページをご確認ください。

東京ガス 安全

発行元：東京ガス株式会社 埼玉支社/埼玉県危機管理防災部危機管理課
問合せ：埼玉県危機管理防災部危機管理課（電話048-830-8141）
<http://www.prof.saitama.lg.jp/e0401/tsumobo-sai.html> 埼玉県のマスコット「コバトン」
平成28年10月制作
企画・制作：NPO法人プラス・アーツ デザイン：文平組 監修：北谷彩夏

1 ページ目を東京ガスが訴求したい内容にアレンジ

タウンページ・イツモ防災タウンページの作成

2018.8
保存版

イツモ防災タウンページ

郵の店 埼玉県 × NTTタウンページ

避難所
マップ付


おや こ
親子でやろう!
うち そな かく にん
お家の備え確認ブック



あなたのイツモが、
モシモを変える。

茂呂山町・鳩山町・超生町・ときがわ町・嵐山町・小川町・東秩父村

埼玉県は「イツモ防災」を推進しています。



埼玉県には、大きな都市がある。豊かな自然がある。地元で働く人もいれば、他県で働く人もいる。ひとり暮らしの人、家族と暮らし、じつにさまざまな人が、日々の暮らしを育んでいます。多様な暮らしが揺る埼玉県。だから私たち全員が防災に取り組み成果を出せば、それは日本の防災のお手本にもなる、と思うのです。災害時の備えを、ふだんから家族や身近な人と話し合う。準備する。それこそ重要。そういうことが当たり前になれば埼玉は、いままで以上に人にやさしく、いのちにやさしい国になる。何があっても、生きやすい埼玉であるために、ぜひあなたから「イツモ防災」、始めてください。SAITAMA ITSUMO BO-SAI

[具体的な取り組み] ● 防災マニュアルブック ● イツモ防災ワークショップ・イベント
● イツモ防災講座

広告



か こ て い
家具を固定する ①

背の高い家具(本棚、タンスなど)の対策

軽いもの
重いもの



軽いものは上に、重いものは下におく。
できていばいば

落ちると危ないものを、高いところにおかない。
できていばいば

倒れたとき、出口をふさがない向きにおく。
できていばいば

寝ている場所に倒れてこない向きにおく。
できていばいば

器具などを使って家具を止める。 **できていばいば**

[おすすめの方法] 器具を組み合わせる [お手軽な方法] ダンボールをつめる



裏面の上下にも器具をつける



背の面に粘着マットをつける。



天井と背の隙は2cm以内。

すべり止めシートをしく。

広告

県内の全住戸・全事業所（約350万部）へ配布

埼玉県内郵便局＋イオン系列店舗▶啓発スペースの提供



A4サイズ啓発ポスターを作成し
県内郵便局及びイオン系列店舗内
にある掲示板スペースに掲載

コープみらい ▶ イベント連携



コープみらいが主催となり、さいたまスーパーアリーナで実施される大型イベント。
イベント内にイツモ防災ブース設営スペースを無償でご提供頂き、防災プログラムをスタンプラリー形式で実施。1日で約1,200名の方にご参加頂きました。

セブン&アイ・ホールディングス ▶ イベント連携



アリオ系列店舗内、催事スペースにて防災スタンプラリーイベントを実施。売り場にはイツモ防災のフラッグを立て、イベントスペースで啓発した防災グッズの実物を実際に購入できるという連携を実施。

● 数字で見る埼玉県民の防災力

埼玉県が県民に対して実践するアンケートを基に、埼玉県内の防災力を定量分析する。

①家具転倒防止対策の変化

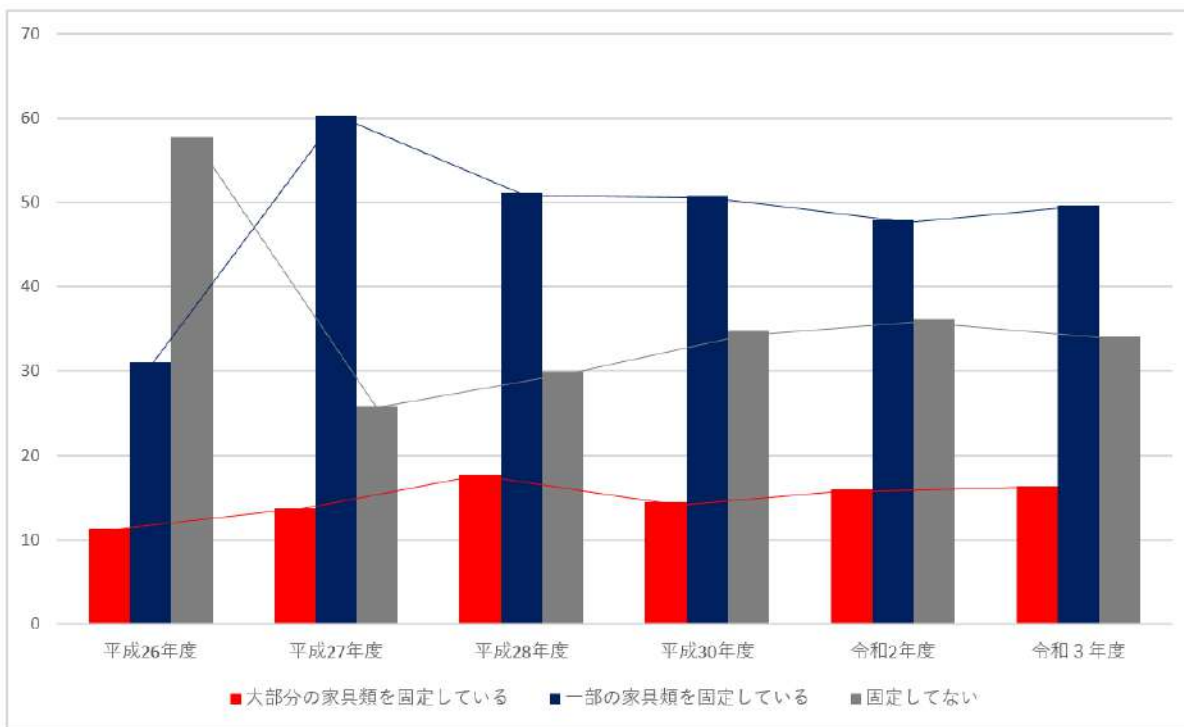
②水・食料の備蓄率変化

③災害用伝言サービス浸透度の変化

● 数字で見る埼玉県民の防災力

①家具の転倒防止対策はどれだけ変化をしたのか？

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度	令和3年度
■ 大部分の家具類を固定している	11.3	13.7	17.7	14.4	16	16.3
■ 一部の家具類を固定している	31	60.3	51.1	50.8	47.9	49.7
■ 固定していない	57.7	25.8	29.9	34.8	36.2	34



N=2,193

2014年～2021年の7年間で
家具を固定していない人

23% 減少 ↓

大部分の家具を固定している人

5% 増加 ↑

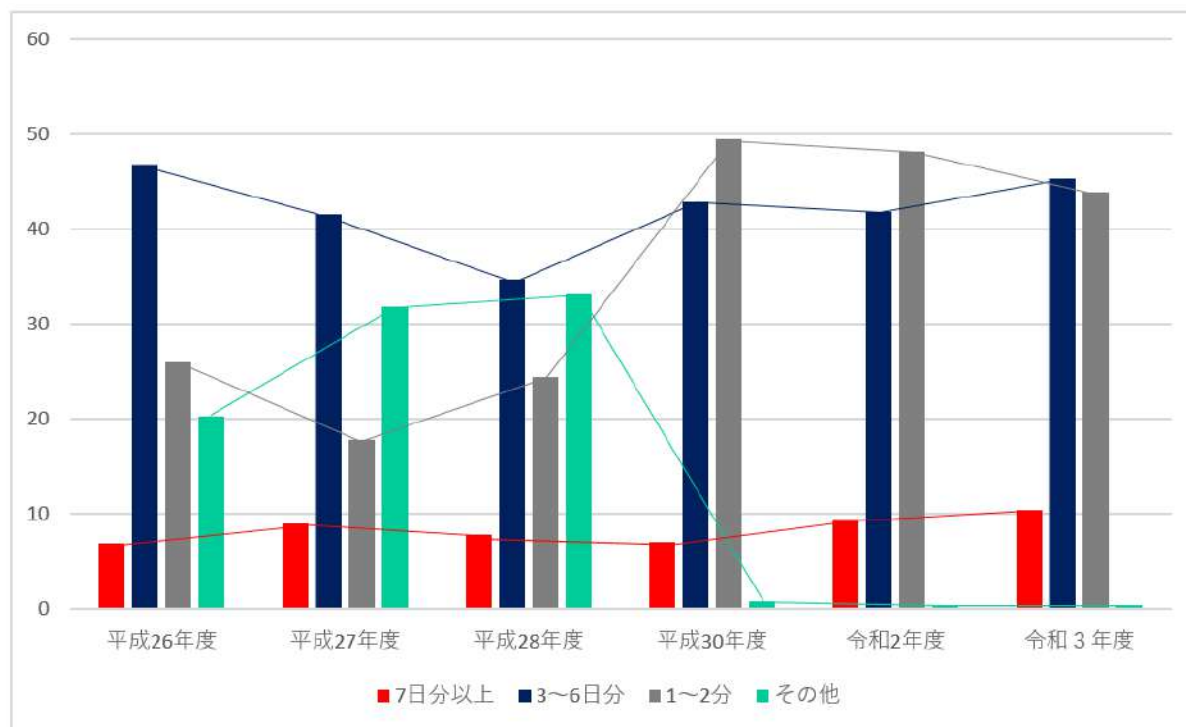
一部の家具を固定している人

18% 増加 ↑

● 数字で見る埼玉県民の防災力

②水の備蓄はどれだけ変化をしたのか？

水	項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度	令和3年度
	7日分以上	6.9	8.9	7.8	7	9.3	10.4
	3～6日分	46.7	41.5	34.7	42.8	41.8	45.3
	1～2分	26	17.8	24.4	49.4	48.1	43.8
	その他	20.3	31.8	33.1	0.8	0.3	0.4



N=2,193

2014年～2021年の7年間で
水を7日分以上備蓄する人は

4% 増加 ↑

3～6日分備蓄する人は

1% 減少 ↓

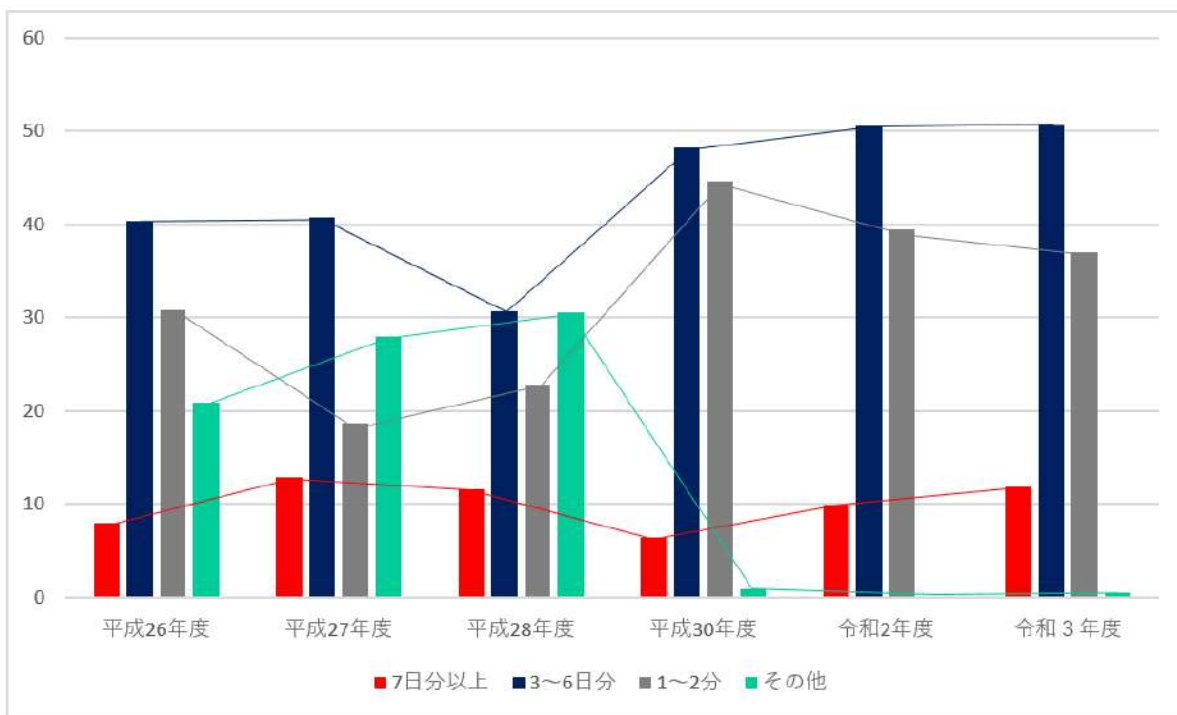
1～2日分備蓄する人は

17% 増加 ↑

● 数字で見る埼玉県民の防災力

②食料の備蓄はどれだけ変化をしたのか？

食料	項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和2年度	令和3年度
	7日以上	8	12.8	11.6	6.4	9.9	11.8
	3～6日分	40.3	40.7	30.7	48.2	50.5	50.7
	1～2分	30.8	18.6	22.8	44.6	39.4	37
	その他	20.9	27.9	30.5	0.8	0.1	0.4



N=2,193

2014年～2021年の7年間で
食料を7日以上備蓄する人は

3% 増加 ↑

3～6日分備蓄する人は

10% 増加 ↑

1～2日分備蓄する人は

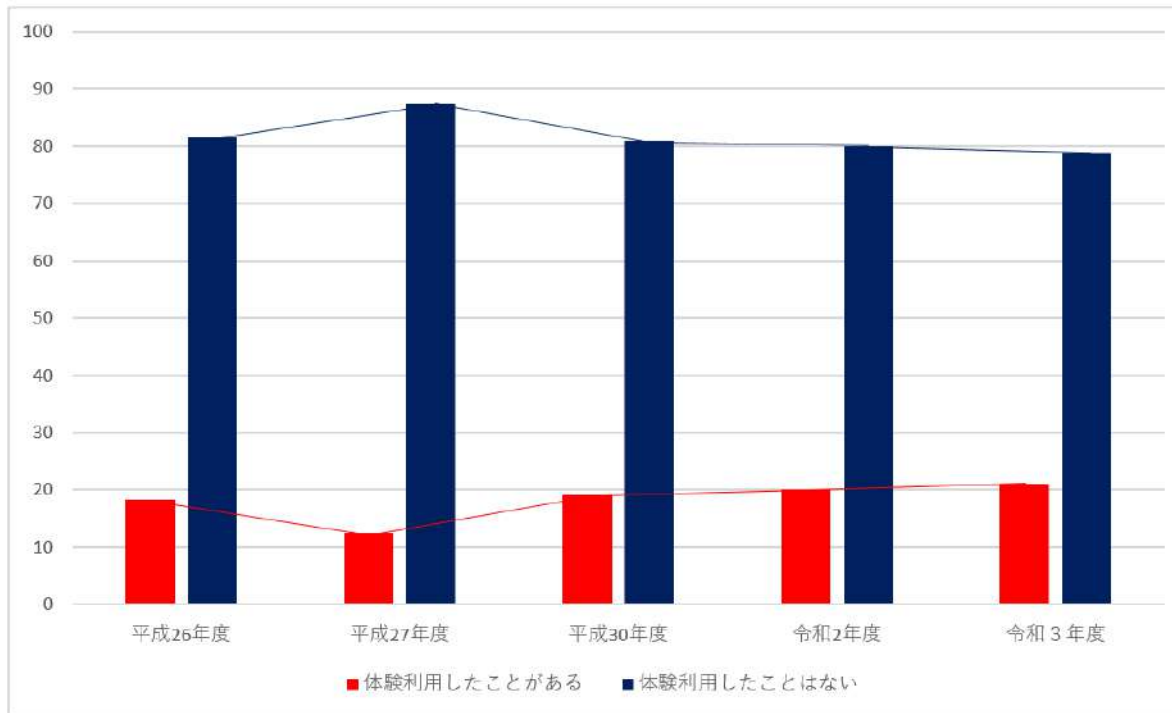
7% 増加 ↑

● 数字で見る埼玉県民の防災力

③災害用伝言サービスの浸透度はどれだけ変化をしたのか？

項目	平成26年度	平成27年度	平成30年度	令和2年度	令和3年度
体験利用したことがある	18.4	12.4	19.1	20.1	21.1
体験利用したことはない	81.6	87.3	80.9	79.9	78.9

N=2,193



2014年～2021年の7年間で
災害用伝言サービスを
体験利用したことがある人

3% 増加 ↑

体験利用したことがない人

3% 減少 ↓

● インストラクターへ（研修受者）のアンケート調査

イツモ防災インストラクターのアクティブ層150名を対象としたアンケート調査を実施。

回収率：35%（53名/150名）

アクティブ層の中でもより積極的な活動をしている5名の方にインタビュー調査を実施。

講座を体験することで、自身にどのような変化があったかヒアリングを行った。

● インストラクターへのアンケート結果

意識の変化

防災に対しての意識が変わりました。

自分が学んだことを多くの人に伝えたいと思いました。

- ・多くの子どもやその親が関心を示してくれており、自分自身も身近なところから取り組もうという気持ちがさらに高まった。「もしも」ではなく「イツモ」というフレーズが腹落ちした。
- ・自分自身の防災に関する知識が系統立てて、整理できた。子供に対する『防災』に関する事の伝え方が理解できた。
- ・教材の提供を受け講座実施時の内容が充実し安定感のあるものとなった。
受講者とのコミュニケーション、意見を大切に、共に学ぶ一体感のある講習会になっていると思う。
- ・防災に対しての意識が変わりました。自分が学んだことを多くの人に伝えたいと思いました。
- ・いいことだから、先ずは自分で行い、多くの人にお伝えしたいと思いました。

● インストラクターへのアンケート結果

自信の変化

**防災講座実施時の説明ポイント等が確信でき、
自信をもって講座を開催する事ができました。**

- ・変化は多いにあった。自信をもって取り組めたのが良かった。
- ・信頼性のある教材（プレゼン）を使って講義をするので自信を持って行える。
- ・根拠に基づいているため、自信をもって活動できるようになりました。
- ・防災講座実施時の説明ポイント等が確信でき、自信をもって講座を開催する事ができました。
- ・自己の防災知識が向上したと共に自信を持って人に防災について教えることができるようになった。
- ・防災意識が高まり、備蓄や減災対策などの知識を得られた。大変良かったと思います。

● インストラクターへのアンケート結果

行動の変化

受ける前の防災講座については、自分で資料作りを行ってました。研修後は、分かりやすいいつも防災講座のパワーポイントを使用し、備蓄品も実物を見てもらいながら行うことができるように。参加者の方からはとてもわかりやすく、どんな準備をしたらいいか具体的に行動しやすいと言われることもよくある。私の講座を聞き、「家具転倒防止をした」とか「こんな備蓄をした」とか、講座後に話に来てくれる方もいて…
少しずつでも防災につながっていると思うと嬉しく思う。

- ・教える立場になってみて、内容がより身近な取り組みなので現実感があり、受講される方々との距離感が縮まった感じがします。教えるというより、一緒に取り組みましょうという感じです
- ・研修をうける前は、伝えたい事がたくさんありすぎて整理できずにいましたが、受講後は、大事なことやポイントが整理され伝えやすくなりました。
- ・他の人に説明をすることにより、自分自身の理解度が進むように思いました。
- ・食料品や紙製品等をしっかり備蓄するようになった。今年2月のトイレトーパー不足の際も困らなかった。
- ・災害への備えが分かりやすく説明できるようになった。
- ・情報を受ける側としての見地で資料を作るようになった。
- ・在宅避難時における注意点を簡単にまとめられるようになった。
- ・わかりやすく伝える事が出来るようになったかも？スキルアップにつながった。
- ・以前より防災の意欲が増して「危機管理展」などを積極的に見学している。
- ・もともと、防災準備に対する必要性は感じていたので、その後防災士資格を取得しました。
- ・訓練に参加することで、他人から聞かれたとき教えられるようになった。
- ・世間話程度でも人に伝えられるようになった。
- ・予備知識が豊富になった。

● インストラクターインタビュー①

研修に参加したきっかけ

県からイツモ防災研修案内のメールが届き「講師養成研修」を行うと。当時、消防団や地域の方に向けての防災啓発を意識していたのと、防災のプロである立場から「一般の方が知っている基礎的なことを自分が知らないのはどうか？」といった思いもあり、良い機会だと感じて参加しました。

イツモ防災を通じて変わったこと

初めて受けた研修が2時間半あったんですが「もっと教えて!」と思うくらい面白かったですね。言葉が優しくイラストが分かりやすいので予備知識がなくてもスッと頭に入りました。「これは高齢者の方でも、すぐに理解してもらえる内容だな」と思いましたね。初めてのイツモ防災講座は消防団幹部の方に向けて行いました。消防職員の見た目から信用度はある程度担保されているものの、大多数は初見の方というアウェーな状況でしたが結果的には「全消防団でこの講座を実践すべき」と、そのくらい好評でした。今では地域に対しての講座は年14~15回。消防署内の研修は年2~3回、他プライベートでのキャンプ体験と合わせた講座を含めると、これまでに50回以上講座を実践しました。



埼玉県 飯能市在住 市川さん

埼玉西部消防局飯能日高消防署
消防第1課 副主幹

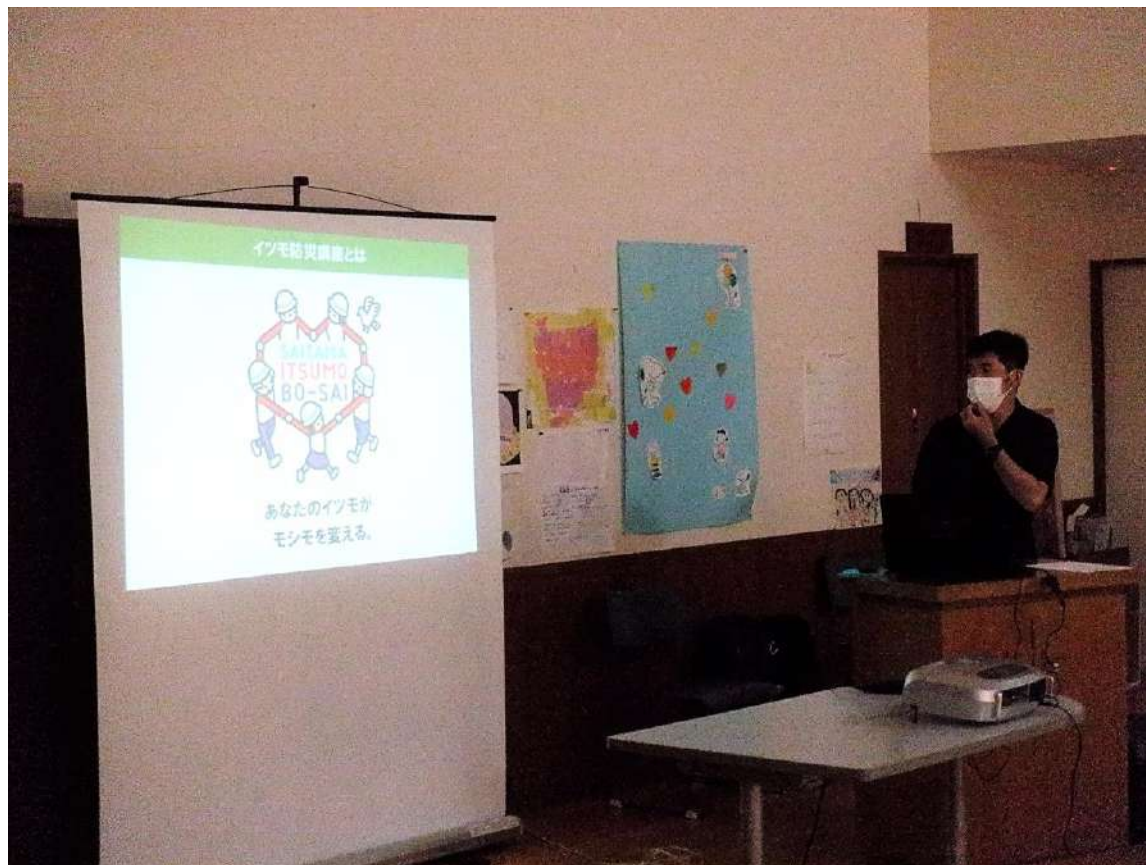
● インストラクターインタビュー①



イツモ防災を通じて変わったこと

講座を実践するにあたって、やはり自分が備えていることが大切ですよね。備えに対する意識が変わったことで、備蓄品にも変化が生まれました。自分の家に防災倉庫があるんですが、避難所に行かなくても生活できるように、携帯トイレであれば250～500枚入っていますし、口腔ケアウェットティッシュなどもひとしきり揃ってます。私はキャンプが趣味なのですが、キャンプに行った際にソーラーパネルでどの程度蓄電ができて、どれくらいの機器を使うことができるのか確認してみる等検証し、その情報を講座で伝える等の工夫をしています。やはり自分の経験値があってこそより立体的に話が伝わるのかなと思いますね。今後はラップポンも購入してみる予定です！

● インストラクターインタビュー①



今後のイツモ防災に期待すること

私の声というよりも、地域の声として、地震もさることながら台風による水害に対して不安に皆さん感じておられます。研修の風水害バージョンを心待ちにしております。



● インストラクターインタビュー②



埼玉県 鴻巣市在住 柳さん

元海上自衛官

研修に参加した動機

3.11の震災対応に携わり、自分の命を守るということを伝えたいという想いがあった。これからの未来を担う子どもたちに伝えて行くことが大切だと感じていた。

いつも防災を通じて変わったこと

はじめて研修に参加した後「自分の地域で講座を実施する」という宿題をキッカケに一步踏み出すことができました。それから年10回程度は埼玉県いつも防災インストラクター（防災士）として、講座を行っています。いい機会を頂きました。

● インストラクターインタビュー②



今後のイツモ防災に期待すること

現状のシステムだと基礎研修を受講し、自ら申請を行えばインストラクターになれてしまうのでインストラクターという肩書だけで、個々の能力に差が生まれています。能力差を外部へ明確に示すため、新たな認定・人材育成制度を導入してほしいですね。またより多くの子どもたちに防災を伝えていけるように例えば教育機関と連携し、防災教育をイツモ防災インストラクター担っていくことができれば良いと思います。災害が多い日本において子供たちに対する教育は、『釜石の出来事』で証明されたように人の命を救う教育であり、その教育に微力ながら何らかの形で携われたらと思っています。

● インストラクターインタビュー③



埼玉県 ときがわ町在住 甲山さん

NPO法人おがわ町自然エネルギーファーム
代表理事

研修に参加したきっかけ

もともと地域でエネルギー関連のNPO活動をしており、新たな切り口として防災に関心を持ち始めていた際、繋がりのあった社協さんから研修の紹介を頂いたのがきっかけです。

いつも防災を通じて変わったこと

研修をきっかけに、NPOで実践した電力に関する啓発講座に防災の要素を加えて「暮らしのエネルギーと防災」という講座をつくることができました。また研修やイベントを通じて、町役場の防災担当とも繋がりが、町・社協と一緒に防災イベントも出来ました。平時より横の繋がりを持って活動することが大切だと思います。

● インストラクターインタビュー③



今後のイツモ防災に期待すること

埼玉県の中でも山沿いの田舎もあれば、都市部もあります。各地域で生活環境に違いがあり、講座で解説する内容も、その土地々に合った内容で説明する必要があると思います。例えばですが講座のスライドも都心型・田舎型等の種類が存在するとより活用する立場の方々にとって利便性が高まり、各地域へのニーズがさらに高まるかもしれません。

● インストラクターインタビュー④

研修に参加したきっかけ

地元の女性消防団として活動しつつ、埼玉県自主防災リーダー養成指導員となり、防災学習をしていました。ある日川越市から県でいつも防災事業を始めるにあたり、地域の人材を推薦したいと声をかけて頂いたのがきっかけです。

いつも防災を通じて変わったこと

以前から自主的に防災講座を行っていましたが、いつも防災講座を行うようになり、防災講座の依頼が4～5倍に増えました。今はコロナ禍でなかなか思うように講座を行えませんが…。いつも防災講座の受講後アンケートには、内容がわかりやすい、この地域も安全じゃないことがわかった、すぐに何を準備したらいいかわかった等の回答が多いです。また、講座受講が2回目という方は、自宅の家具転倒防止をしましたとか備蓄品を増やしましたとか、伝えてくださる方もいて、ほんとに嬉しいです。この講座を地域の女性消防団員にも行い、地域の防災啓発にも役立ててもらえたら嬉しいなと思っています。



埼玉県 川越市在住 田中さん

保育士

● インストラクターインタビュー④



今後のイツモ防災に期待すること

小さなお子さんのいる家庭向けの防災啓発をお願いしたいですね。私自身が保育士であり母であり女性であるという立場から改めてそう思います。その世代のご家庭ではお子様の対応で防災のことなんて考える余裕がないんですね…でもイザというときには子供の命を守るのは自分達しかいないわけです。であれば、当然備えを学び準備しておくことは親としてはやっておきたいことですし、なにより地域の将来や防災を担うのは他ならない自分の子供たちである可能性が高いですよ。ご家族の中でも特に女性の意識が変われば、普段のお買い物の中で食料の選択肢が変わったり、防災グッズコーナーに足を運んだり、家具の固定器具の取り付けを旦那さんをお願いできたりするわけです。実際、新米パパ・ママにとって、自分たちの命を守り、大切な子供の命を守ることはなによりも重要なことだと感じておられるでしょうし、ニーズも高いと思います。女性が変わればお家が変わることをイツモ防災事業の中でチャレンジして頂ければと思います。

● インストラクター インタビュー⑤

研修に参加したきっかけ

中学生の頃、1964年の新潟地震で被災。2004年の新潟県中越地震のときにも被災経験があり、防災に対して強い意識がありました。時を経て川口市自主防災連絡協議会の会合座長をしていた折り返りのイツモ防災事業が開始するタイミングで川口市から推薦をお受けしたのがきっかけです。

イツモ防災を通じて変わったこと

研修を受けたときは目からウロコでしたね。「こういう伝え方もあるんだな」といった感じ。イツモ防災の機材に刺激を受けて自分で「家具転倒防止キットの模型」を制作にチャレンジしました。その機材を川口市の防災訓練で実施することもありましたし、実施した結果「またやってほしい」とご好評いただけたりしましたね。



**埼玉県 川口市在住
木村さん**

● インストラクター インタビュー⑤



今後のイツモ防災に期待すること

避難所の情報や運営方法をより簡単に伝えられる理解できる。その様な取り組みを実施してもらえたらと。過去の台風被災で見られましたが避難所運営は非常に課題です。私の地元では高齢化も見られるので、全ての住民が等しくスマホやPCを使って情報を得るのは難しいです。町会ネットワークなどでの連絡も限界があります。この様な地域性を抱え災害時の避難所問題に対応するには、避難所が開設される諸条件を事前に地域の方々へ知って頂くこと、かつ仮に自分が避難所運営の当事者・または利用者となった際、互いに摩擦なく動けるよう、地域の防災訓練などの方法で学んで頂くことが必要だと強く感じています。この「情報をどのよう分かりやすく伝えられるようになるか」という問題は、思った以上に深刻であると当事者としては思います。ぜひイツモ防災事業の中でもこの事柄について支援頂ければ嬉しいです。

● まとめ

埼玉県イツモ防災事業は**5年間で856名**に講師養成研修を実施。うち**326名**が**インストラクター**に登録。**150名**が**アクティブ**に活動している。インストラクターによって県内にイツモ防災講座を受講した県民が、現時点で**98,681名**。県政アンケートによる3つの自助（家具固定・水食糧の備蓄・災害時の連絡方法）の**行動推移も一定の向上**を見せている。インストラクターには、バリエーション豊かな啓発ツールとノウハウと提供したことで、**個人のスキルや意識・行動の向上に寄与した**と考えられる。

● まとめ：次年度以降取り組むべき事業の課題

インストラクターより提言された課題

- 風水害に対し危機感が高まっているので研修を実施してほしい
- インストラクター能力差を識別できるような新たな研修制度・認定制度を設けてほしい
- 子育て世代向けの防災啓発を支援してほしい
- 避難所情報・避難所運営に関し情報を分かりやすく・伝えられる方法の開発をお願いしたい
- 教育機関と連携し、子どもにいつも防災を広めてほしい
- 立地特性に応じ啓発内容をカスタマイズしてほしい

プラス・アーツが考えるいつも防災の課題

- 事業の認知度・話題性が低い
- より有機的な連携機会（市町村・企業・NPO・教育機関等）の創出が必要である
- インストラクターの力量が一定でない
- 市町村によっていつも防災に対する理解度・協力度に開きがある
- インストラクターがより活躍できるネットワークの形成が必要である
(講座を実施する場の掘り起こしと、連携方法の構築)

● まとめ：次年度以降取り組むべき事業の改善方法

課題を受けての改善方法

- 風水害研修の実施
- 子育て世代向け研修の企画検討
- 能力診断テストの実施
- 包括連携協定を巻いている企業との連携機会の創出
- 社会福祉協議会、教育機関等との連携機会の創出
- 都心部以外の地方における研修機会の提供
 - ▶ 地方部で実施するに際し、立地特性等の情報を調査する。
- 県民に対する事業の認知拡大
 - ▶ 定期的な話題性のある情報の発信
 - ▶ 効果的なPRの実施